

世代別3人の女性不動産鑑定士が「わたしたちの幸せ」を叶える自分らしい働き方について語る



杉浦 綾子氏 (写真中央) 日本不動産鑑定士協会連合会副会長
信託銀行入社後に資格取得。鑑定事務所等を経て、現在は株式会社杉浦総合鑑定を設立。様々な委員会事業を立ち上げ、不動産鑑定業界を牽引。

高橋 智美氏 (写真右) 不動産鑑定士
ハウスメーカーの営業職を経て不動産鑑定士へ。子育てをしながら、公的評価や委員会活動にも積極的に参加する二児の母。

荻原 万葉氏 (写真左) 不動産鑑定士
法律事務所を経て、資格取得後に日本不動産研究所へ。入社3年目の不動産鑑定士。

ワークライフバランスを求め方こそ不動産鑑定士の魅力を知ってほしい

不動産鑑定士を目指したきっかけとは

杉浦氏 男女雇用機会均等法が施行された三年後に総合職として信託銀行へ入社したのですが、「第一線で活躍するパスポートの一つとして、不動産鑑定士の資格取得も有効な手段なのは」との女性総合職の先輩からのアドバイスを機に不動産鑑定士の道を目指しました。受験勉強に専念できる社内の支援制度に応募・採用され、不動産鑑定士の資格を取得しました。

高橋氏 元はハウスメーカーの営業職でもともと楽しくやっていたこともありましたが、当時は平日定休・土日祝日の勤務形態、夜の打合せなどにより、夫と休日を合わせる事が困難でした。将来子供をもったときの学校の休みなども考えると、続けていくのが難しい業務だと思っていたこともあり、一生働き続けるには資格が強みになるのではないかと結婚を機に宅地建物取引士(現・宅地建物取引士)の上位資格として紹介されていた不動産鑑定士を目指しました。

不動産鑑定士ならではのワークライフバランスや働きやすさとは

杉浦氏 会社組織と独立開業の場合とでは違いがあるかもしれませんが、ただ、不動産鑑定業務は全国各地でも、自ら時間管理をして業務を行うことができる有効な資格であると思います。性別を問わず、子育てや介護などの家族に関することはもちろん、趣味や社会活動などのプライベートも含め、

目指しました。荻原氏 不動産鑑定という仕事を正直聞いたこともありませんでしたが、前職の法律事務所の業務の中で鑑定評価書を取得する機会があり、そこで初めて不動産鑑定士という職業を知りました。面白そうな仕事だと思いつつも、周りに不動産鑑定士がおらず、未知の業界であったということもあり、自分に合わなければ他の道もあるという気持ちで挑戦したことがきっかけです。今ではこの業界に踏み込んで良かったと感じています。

ワークライフバランスを保ちやすい職種になってきています。この恩恵は地方部における鑑定士ほど享受しているとの話もよく伺います。また、不動産・コンサルティング一般における専門性を担保するパスポートでもあると思います。実際、少ない数の方が鑑定以外の業務において、その考え方や理論を応用して活躍しています。そして今は多くの方から、第二の人生を見据え、不動産鑑定業務への帰還を含めた様々なご相談をいただいているという状況です。

高橋氏 私は小規模事業者ということもあり、自分の裁量でスケジュールを決められ、小学生の子供二人の学校行事や親の通院の手伝い等に予定を融入、



通しやすいことがとても助かっています。また、大手の看板を後ろ盾にせずとも、信頼を得て依頼いただけるのが「不動産鑑定士」の資格ならではの魅力だと感じています。

杉浦氏 私は鑑定会社に所属してありますが、仕事は個人によるところが大きく、スケジュール管理さえ出来れば、基本的には自由に時間休や有休取得が可能です。さらに不動産鑑定およびそれに付随する業務は全国にあり、個人の価値観やライフスタイルに合わせて勤務地が選べることから、時間も場所も自由度が高い職種であると思います。出張で全国各地へ行くことも魅力に感じています。

今後の業界への期待とこれから目指す不動産鑑定士とは

杉浦氏 この業界もかつては封建的、情報閉鎖的な部分もありましたが、それぞれの世代の方々のご尽力や新しい技術の進歩などによって、大きく変わってきています。実際、国土交通省に登録されている不動産鑑定士の女性比率は7・7%と10%に満たない状況にあるのですが、2015年から2024年までの新規登録者に占める女性の比率は21%と増加傾向にありま

ライバルバランスといえるかもしれないですね。出張先では業務後に観光地も回れますし、銘産品を買ったことが私にも楽しみの一つでした。ライバルバランスといえるかもしれないですね。出張先では業務後に観光地も回れますし、銘産品を買ったことが私にも楽しみの一つでした。

高橋氏 私の仕事は地価公示等の定期的な公的評価が主軸で、その他公共団体や民間から依頼いただく不動産鑑定評価が不定期にあります。それら鑑定に係る業務以外にも、宅地建物取引士の法定講習講師や不動産関係のセミナー講演、市の空き家対策協議会委員等、多くの業務に携わっております。今後も新たな知識を学び、様々な人と交流し、不動産鑑定士としての資格を活かしながら働いていきたいです。

荻原氏 鑑定評価書を見たことがきっかけに鑑定士を目指したため、鑑定評価業務が中心というイメージがありました。実際にはコンサル業務から再開発、マンション建替や海外不動産評価等、想像以上に業務の幅が広く、デスクワークだけでなくフィールドワークも含め、様々な経験ができることを知りました。これからは新しいことを学び続けるという志を忘れず、次代の鑑定士になればと思います。

これからは不動産鑑定士を目指す方へ

荻原氏 仕事内容が面白く、ワークライフバランスも取れる上に、ある程度の給料もいただける。さらには老若男女問わず中途参加が可能。「自由」な働き方を叶えてくれる資格です。受験のハードルはありますが、挑戦する価値は十分にあるので、ぜひ目指してみてください。

高橋氏 不動産情報以外にも、常に變動する社会的要因(法改正や人口動態等)や経済的要因(金利動向や株価等)等色々な情報を得て学ぶことが必要です。得た知識を使い、鑑定以外の

広い業務にも携わることが出来ます。好奇心を持って学ぶことが好きな方、ぜひ一緒に不動産鑑定業界で働きましょう。

杉浦氏 不動産鑑定士という資格は、もはや女性にとってスタートラインに立つために必要なプラスアルファの武器ではなく、また、自分と合わない業務環境であれば他の職種に自由に変えられる、つまりは男女変わりなく、数多くある選択肢の中から、有為な選択肢として積極的に選ばれる業界になってきていると感じて大変嬉しく思います。また鑑定評価業務のみならず、行政や裁判所等での活動を通じた社会活動への貢献も可能な資格であり、営業利益の追求に加えて自らの幸せと社会活動等との両立が可能な業界でもあると思います。



人生をフレキシブルにする国家資格
不動産鑑定士という選択を。

公益社団法人
日本不動産鑑定士協会連合会
Japan Association of Real Estate Appraisers

日本不動産鑑定士協会連合会
公認キャラクター
不動産鑑定士の認知を目的として
各地のイベントに登場しています。

不動産鑑定士とは、どんな職業であるのか、どんな場面で求められているのか、詳細は、本会ホームページにてご案内しています。
<https://www.fudousan-kanteishi.or.jp/kanteishi/>

